



土地利用型農業の6次産業化の進捗状況は？

問

答

加工品開発のブランド化を支援、新たな人材も発掘

問

6次産業化の進捗状況は？

産業振興課長

6次産業化は、農作物加工を促進するために、加工品開発や施設整備等に対して支援を行っている。

国の6次産業化・地産地消促進法に基づき、農業者等が事業者と連携して商品開発に取り組む、飲用酢「美酢あまおう」や「美酢とよみつひめ」を初め、「きのこはんの素」などが商品化されたほか、干しエノキやフローズンあまおう、ドライあまおうなどの4件の加工品開発が行われている。

農産物加工促進事業により、菜種油、「環のかおり」の原料となる菜種栽培用の機械整備やヒシ茶、キノコジュレ、ドレッシングの開発、パッケージデザインなど支援してきたほか、農産物加工販売施設では、地元農産物を使用した加工品開発を促進し、女性加工グループを農産加工品開発の育成グループとして指定し、商品の試作、開発からパッケージデザインまで重点的に支援、これまで「ヒシクッキー」「まるごといちじく」及び「アスパラシフォンケーキ」など、十数種の菓子類を商品化し、又、菓子、惣菜等の加工教室の開催



6次産業化の製品

を通して、新たな人材発掘を進めており、個別に支援していく。商品にするためには、その製品の持つ物語性や希少性など魅力が必要であり、それを補完するためのネーミングやパッケージデザイン、マーケティングに係る調査・分析が重要である。

6次産業化は経営者として相当の責任と覚悟を持って取り組んでいたがなければならず、決してそのハードルは低いものではない。加工教室の開催等を通じて6次産業化に向けて加工開発から販売までふさわしい専門家を入れてトータルに支援し、着実に人材を育成していかなければならないと考えている。

問

米、麦、大豆についての今後の取組みは？

産業振興課長



6次産業化の製品

今後、循環型農業の推進の一環として、町にある資源として、キノコの廃菌床を堆肥化し、麦、大豆では減農薬、減化学肥料栽培等の認証を受け、ブランド化を図っていくため、現在、麺や豆腐等の加工品開発にまで結びつけていきたいと検討を重ねているところである。

水稲については、「環のめぐみ」としてブランド化を図り、町内の食卓にお返ししている。

そのほか、米粉の活用等、提案いただいたことについても、今後検討課題としてしっかりと考えていく。

6次産業化とは

第1次産業

農畜産物、水産物の生産

第2次産業

第1次産業で生産された物の加工

第3次産業

第2次産業で加工された物の販売業。

1次2次3次を掛け算して付けられた造語。

1次×2次×3次＝6次

一番弱体化している農家等が加工販売・サービスマまで行って農林水産物の付加価値を高める事で所得向上や雇用創出につながる事をめざしている。